



発行日：平成27年10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第29回川部会WGを開催しました！

10月13日(火)に第29回川部会WG(家下川モデル)が豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、新設排水機場(上郷排水機場)の設計状況、承水溝・長池(ひょうたん池)等の段差解消について意見交換を行いました。

日時：平成27年10月13日(火) 10:00~12:00
会議場所：豊田市職員会館2F 第1会議室
参加者：21名(事務局含む)



◆主な会議内容

1.本日の話し合いでわかったこと



■新設排水機場(上郷排水機場)の設計状況についての説明

●新設排水機場の設計について、第26回川部会WG(6月開催)以降、承水溝の設計・仮設計画に変更が生じたので、以下の2点の変更点をご報告します。

(1) 浚渫可能高の変更

以前のWGでは、浚渫可能高さ(既設上郷柳川瀬排水機場設置当時の承水溝の高さ)について説明しましたが、承水溝の高さと同等の機場呑口の高さを実測したところ、①出来高図面との間に差異があったこと②遊水池がフラットではなかったことがわかったため、浚渫可能高を変更します。

(2) 仮設計画の変更(新設機場築造仮設・既設機場撤去仮設)

以前のWGでは、築造時前面の土留は「自立式構造」を予定していたが、今回は「切梁式構造」とし、築造時に前面を盛土することで盛土撤去時の承水溝掘削範囲を広げました。

●冬場の魚の待避場の確保について、以下の2点の検証を行いました。

(1) 完成後の容量検証

施設容量について、現況では約980m³[上郷第2排水機場(既設)+上郷柳川瀬排水機場(既設)+承水溝(浚渫前)]となっています。完成後は約1,850m³[上郷柳川瀬排水機場(新設)+承水溝(浚渫後)]となり、現況よりも容量は多く確保できると考えられます。

(2) 施工時の容量検証(H28~H29の上郷第2排水機場が撤去され、新機場の下部工ができるまで)

施工時の容量について、現況では約180m³[上郷第2排水機場(既設)]となっています。仮設時は約190m³[上郷柳川瀬排水機場(既設)前面部(承水溝)の掘削]と、現況よりも容量は多く確保できると考えられます。

●新設上郷柳川瀬排水機場ができるまでの冬場の魚の待避計画について、平成28年度は浚渫時に取り残された魚を締切りの外に移動させた後、柳川瀬排水機場前面の待避場に移動させる計画です。また、平成29年度は柳川瀬排水機場前面から新設柳川瀬排水機場水槽内へ移動させる計画となっています。

■承水溝・長池(ひょうたん池)等の段差の解消について

●平成26年9月開催の第21回川部会WG(家下川モデル)段差解消、水源確保の参考資料を用いて、長池と承水溝のつながりについて再度検討したいと思います。前回の資料に記載した宗貞川樋門(矢作川本提の樋門)は遊水池第2樋門であることを訂正します(本資料のp3図中に手書きで訂正記載)。

■今後のスケジュールについて

●今後は、11月地先モデル、12月本川モデルを予定しています。

☆11月地先モデルは、11月11日(水)午後とし、矢作古川分派施設、矢作古川頭首工等を見学します。

☆12月本川モデルは、12月18日(金)午後(予定)とし、白浜地区のモニタリング状況報告、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の内容の紹介と意見交換を行います。

2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 新設排水機場（上郷排水機場）の設計状況について

（・意見 ▶ 回答）

豊田加茂農林水産事務所より、新設排水機場の設計について報告がありました。この内容について、意見交換を行いました。

- ・新たな排水機場の給水槽を魚の待避場とする場合、コンクリートを打ってどのくらい経過しているのか。アルカリ水の問題はないか。（本守）
 - ▶ 1年間くらい経ってから待避場とする。（清水）
- ・1年も放置できるのか。それなら、あらかじめ新設排水機場に水を入れておき、アルカリ水を十分洗い流してから水を入れ替え、放流してほしい。それでなければ、アルカリ水を取り除くことはできない。（本守）
 - ▶ 強度を発生させるため、コンクリートを打ち終えてから水を入れるまで2ヶ月空ける予定だ。（國島）
- ・水を止めるなら、最大どの程度止められるか。（鈴木）
 - ▶ これまで2ヶ月程度としていたが、アルカリ水が流れ出す時間を考慮して、1年間水を入れない計画としたい。（清水）
- ・アルカリ水は取り込んで中和するようにする。その方法は、矢作川では前から行われていることだ。（本守）
- ・浚渫は護岸に影響がない範囲までしかできない。前回の報告では16.10mまでであれば護岸は倒れないと判断していたが、その後の検証では、その高さでは護岸が倒れてしまうことがわかった。（清水）
 - ▶ 護岸が倒れないように両サイドをふとんかごで押さえることはできないか。前面を掘らなくても、全体の1/3あるいは半分程度深い部分ができればよい。（本守）
- ・前回の議論では、冬場は特に水深が欲しいといったが、全体を均一に掘るという意味ではなかった。全面をすべて浚渫しようとするから、このような無理が生じるわけだ。（光岡）
- ・魚にとってはどれくらいの深さが必要なのか。（鈴木）
 - ▶ 一般的に水深は体高の3倍と言われるが、最低1mはほしい。部分的には1~1.5mあるとよい。（阿部）
- ・排水機場の建設は土地改良法に基づくものであり、土地改良法は改正されて、環境との調和という条文が新たに加わった。そのため、本事業は環境との調和に配慮する必要がある。（内田）
 - ▶ 新設排水機場について事業費は確定していない。全体の試算は出ているが、環境への配慮によって大きな乖離が出る場合は、関係省庁より指摘が出ると思われる。この深みを設ける浚渫においても、できる範囲でということになる。（鈴木）
- ・平成28年2月か3月に議論の場を設けたい。前回の川部会WGの時に豊田市の河川課とも議論してほしいと頼んだが実現されていないようだ。次回は是非議論の結果を教えてください。（内田）

(2) 承水溝・長池（ひょうたん池）等の段差の解消について

事務局より、前年度からつづく段差の解消について再度説明がありました。この内容について意見交換を行いました。

- ・段差を解消する案（長池の水質改善の目的も含む）として、まず簡単な井戸を掘って風車式の揚水機を使って長池から承水溝に水を流す。余分な水を設置した魚道に流せば魚も上れる。これは管理費が要らないことが一番の利点であるが、豊田市では年間平均風速が1m程度しかなく、風車が回らない可能性がある。（事務局）
 - ▶ それは自然にとっては適切な手段ではないが、その方法も考慮に入れる必要がある。（阿部）
- ・宗卓川の北に流れる用水だが、公園内で宗卓川に接近している場所で、地下に穴をあけて宗卓川に流すことはできないか。（内田）
 - ▶ 宗卓川より低いいためポンプアップする必要があるし、水量が期待できない。（本守）
- ・用水に堰や水車を設けてはどうか。（事務局）
 - ▶ 堰上げした時に止水域が柳川瀬公園内にとどまるなら問題ないと思う。（本守）
 - ▶ 水車を回す流量が確保できないだろう。（阿部）
- ・樋門の横の土手に穴をあける矢作ダムの発想を考えるともらえないか。（本守）
 - ▶ 道路の土手と同じ考えでよいかという判断も必要になる。（事務局）
- ・現地をみて改めて考えたいと思う。（内田）



(3) 今後のスケジュールについて

- 11月11日 第30回川部会WG（地先モデル）
- ・矢作古川分派施設の見学では、矢作古川頭首工に大量発生しているカワヒバリガイの状況も見ていただきたいと思う。（内田）
- 12月18日 第31回川部会WG（本川モデル）
- ・溝口先生にもう一度ご指導いただきたい。（本守）

今後の流域圏懇談会の予定



■第29回川部会WG

日時：平成27年11月11日（水）13:30~15:30

内容：地先モデル：矢作古川分派施設、矢作古川頭首工等見学



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

